

トビスジヒメナミシヤクの
有害動植物リスク分析

平成 24 年 2 月

横浜植物防疫所

第1章 ステージ1：トビスジヒメナミシヤクに関する有害動植物リスク分析の開始

1-1 開始：(開始するに至った問題の本質、目的)

トビスジヒメナミシヤクは現在検疫有害動植物として取り扱われているが、検疫有害動植物については、平成16年5月21日に公表された「植物検疫に関する研究会報告書」で「検疫有害動植物については、輸入植物の用途や輸送形態も考慮し、可能な限りリスクの定量的な評価を含めて、適時適切なPRA（有害動植物リスク分析）を実施し、それぞれのリスクに応じた措置となるよう検証し、対応していくことが適当。」とされた。

このため、トビスジヒメナミシヤクの有害動植物リスク分析を見直すこととした。

1-2 有害動植物リスク分析地域の特定

日本全域と特定する。

1-3 対象となる経路及び潜在的検疫有害動植物

1-3-1 経路

トビスジヒメナミシヤクが発生する地域から輸入される寄主植物を経路と特定する。

1-3-2 潜在的検疫有害動植物

トビスジヒメナミシヤク（学名：*Orthonama obstipata* (Fabricius)）を潜在的検疫有害動植物と特定する。

1-4 情報

生物学的な情報は、別紙のとおり。

1-5 開始の結論

検疫有害動植物の取り扱いについては、「植物検疫に関する研究会報告書」において、付着する植物の用途や輸送形態を考慮しつつ、随時適切な有害動植物リスク分析を実施する旨の指摘があったことから、有害動植物リスク分析を実施する必要性が生じた。

本種を潜在的検疫有害動植物と特定し、また、本種の発生国の寄主植物を経路と特定し、我が国全域を対象として、植物検疫措置に関する国際基準 No. 11「検疫有害動植物のための有害動植物リスク分析」に基づき、有害動植物リスク分析を開始する。

第2章 ステージ2：有害動植物リスク評価

2-1 植物検疫上の取り扱いに影響するトビスジヒメナミシヤクの特性等

2-1-1 系統

植物検疫上考慮すべき系統に関する情報は見つからなかった。

2-1-2 未発生有害動植物のベクター

ベクターとなることに関する情報は見つからなかった。

2-1-3 日本での分布状況及び公的防除の有無

トビスジヒメナミシヤクは、日本全国に分布している。

本種は、公的防除の対象ではない。

2-1の結論

トビスジヒメナミシヤクは、日本全国に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物に対する被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。よって、有害動植物リスク分析は中止する。

別紙

和名	トビスジヒメナミシヤク ^{4)、5)、7)、9)}
学名	<i>Orthonama obstipata</i> (Fabricius) ^{4)、5)、7)、9)}
英名	
分類	チョウ目 (Lepidoptera) ⁷⁾ シヤクガ科 (Geometridae) ^{4)、5)、7)、9)}

分布：(日本) 日本全国⁴⁾
(世界) 全世界⁴⁾

寄主植物：ヒヨドリバナ、タデ、ギシギシ、セイヨウヒルガオ属、ローマカミツレ、ノボロギク、キク属、スイゼンジナ、アリッサム属、カブ、マメ科牧草^{1)、3)、4)、6)、7)}

形態・生態：成虫の雄の触角は各節の上端と下端から小突起が出て、微毛が生え、雌では単純で短毛が生えている。前翅の小室は2個。雄は翅が明色で、前翅中央が帯状に暗化し、雌は前翅が赤褐色。横脈点は、雌では白環にかこまれている。幼虫の体の色調は変異に富み、気門域から背方は淡い褐色から黒に近い褐色まで、腹方は淡い黄緑色から緑色まで見られる。背面には小紋を並べる。ヨーロッパや北アメリカでは本種に移動性のあることが知られている。寒い地域では越冬できず、毎年春になると暖地から移動してくるといふ。日本では移動の事実が確認されていない。^{4)、9)}

被害：幼虫は日本ではキク科のスイゼンジナ、アブラナ科のカブ等の葉を加害することが報告されている。^{3)、6)}

ベクター・

系統：植物検疫上考慮すべき系統等が存在するとの記述はなく、日本未発生 of 有害動植物のベクターとなる旨の記述もない。²⁾

防除法：花き類、観葉植物等においてシヤクトリムシ類に対する登録農薬がある。⁸⁾

- 文献：1) Biological Records Centre (2011) Insects and their Food Plants (<http://www.brc.ac.uk/dbif/homepage.aspx>)
- 2) CAB International (2011) Plant Protection Database (1972-2011). Silver Platter International N. V. (<http://ovidsp.ovid.com/>)
- 3) 北海道農業総合研究機構 平成18年農業新技術発表要旨 平成18年度に特に注意を要する病虫害
- 4) 井上寛・杉繁郎・黒子浩・森内茂・川辺湛 (1982) 日本産蛾類大図鑑 I. 講談社、東京：966pp.
- 5) 九州大学大学院農学研究院昆虫学教室 編 (1999) 日本産昆虫目録データベース. 九州大学大学院農学研究院昆虫学教室. (<http://konchudb.agr.agr.kyushu-u.ac.jp/mokuroku/index-j.html>)
- 6) 村上万知子・津田勝男・櫛下町鉦敏 (2000) スイゼンジナを加害する害虫の生態学的研究 3. 鹿児島県内における害虫相と主要種の発生および被害の消長 (II) South Pacific Study Vol. 20, No.2 p13-40
- 7) 日本応用動物昆虫学会 編 (2006) 農林有害動物・昆虫名鑑増補改訂版. 日本応用動物昆虫学会、東京：387pp.
- 8) 独立行政法人農林水産消費安全技術センター. 農薬登録情報検索システム. (<http://www.acis.famic.go.jp/>)
- 9) 杉繁郎 編 (1987) 日本産蛾類生態図鑑. 講談社、東京：453pp.

